

白門経友会



コロナ禍のためご心労を抱えながらお過ごしになられている方も多いことでしょう。心よりお見舞い申し上げます。マスクでの仕事や生活もすっかり日常化してしまいました。皆様体調にお気をつけて、健康にお過ごしください。

さて、中央大学は、昨年度に続き今年も五輪を意識した学年暦で、例年より少し早く前期授業を終了しました。感染防止策として、集合型授業とオンライン授業とを組み合わせた実施でした。対面でのコミュニケーションが少なくなっているのは残念ですが、他方でオンラインを活用した様々な新しい試みもなされており、期待したいと思えます。

コロナ禍での国際交流

経済学部准教授 武田 勝

経済学部のグローバル教育の取り組みの一環である、GFS(グローバル・フィールド・スタディーズ)というプログラムを利用して、武田ゼミでは、二〇一六年度から韓国の釜山教育大学の学生との交流会を続けてきています。

釜山教育大学は小学校教員養成の単科大学です。将来、韓国の小学校教員になる学生たちとの草の根交流が、日韓関係の改善にほんの少しだけでも役立つのではないかと期待の下に、交流を続けています。

武田ゼミのGFSは二年生を対象としています。テーマあたり一時間が割り当てられ、プレゼンテーションと質疑応答を英語で行います。これを二校で六テーマ分おこないます。テーマは、経済だけでなく、お互いの文化の紹介なども含みます。

ます。

韓国の学生に英語でプレゼンをします。日本同士では成り立つであろう暗黙の前提が成り立ちません。たとえば、相撲の力士について話す場合、「ちよんまげ」を私たちがある程度想像することができると思いますが、韓国の学生はまったく想像できないと思います。そういう相手に、いかに英語で伝わるプレゼンを行うか。そうしたことを、これまで日本で過ごし、日本語母語話者であるゼミ生たちは、否応なく(英語ができないことも含めて)学びます。この経験を踏まえて、日本語で行われる三年次の経済学部プレゼンテーション大会へとつなげていきます。以上のような目的をもった交流会は、このコロナ禍におけるオンライン交流会でも、ある程度達成できないのではないかと思います。

ただ、現地に行つてこそその学びもあるでしょう。たとえば、前回の釜山での交流会は、二〇一九年三月一日に行われました。三一独立運動の百周年となる年で、マスクコミでは、渡韓は危険だと喧伝していたと思います。現地入りした学生のもとには、保護者の方々から、危険ではないかとの安否確認が頻繁にありました。

ですが、現地にいけばマスクから流される情報にかなりの切り取りがあることが体感できます。まさに「百聞は一見に如かず」を実体験します。経済学部が提供するGFSの「フィールド・スタディーズ」には、こうした学びにも期待が込められているのだと思います。

しかしコロナ禍で、オンラインによる国際交流の敷居が低くなったことは新たな発見でもありました。双方の良い面を活かしつつ、今後もGFSが学生の大きな学びになるよう運用できればと思います。



2021年2月に行われた、釜山教育大学とのオンライン国際交流の様子

第三一回定期総会資料

第1号議案(1)二〇二〇年度活動報告

I 会議

1. 二〇二〇年度定期総会

二〇二〇年八月十七日(月)

八月二十二日(土)

白門経友会ホームページで以下の資料を閲覧、持ち回り審議

▼第1号議案

二〇一九年度活動報告及び決算報告

▼第2号議案

二〇二〇年度活動計画及び予算案

▼第3号議案

その他報告事項

常任幹事会

オンラインでの通常の常任幹事間とのやりとりとは別に常任幹事会としての会議を以下の日程で行いました。主に会報の内容企画や進め方について調整等をいたしました。

・二〇二〇年八月十七日(月)

八月二十二日(土)

・二〇二〇年十二月七日(月)

・二〇二一年二月二五日(木)

II 行事

1. 常任幹事会での学生との交流

従前より継続して実施してきて

いる活動ですが、コロナ禍のため今年度は実施できませんでした。しかしながら間接的には会報の記事の投稿を学生に依頼し実質的には交流しております。

2. キャリア講演会の開催

コロナ禍のため今年度は実施できませんでしたが、二〇一九年十二月六日(金)に開催したキャリア講演会でのOBの安藤磐氏の

ご講演の内容を会報の記事として掲載しました。これは、ご自分の会社の起業から優良企業への発展に関する体験談を踏まえたもので、キャリアデザインに関する問題意識を深めるきっかけとなったものと考えます。

3. 授業協力者の派遣

コロナ禍のため今年度は実施できませんでした。

4. 経和会懇親会に参加(中止)

残念ながらコロナ禍の関係で今年度も中止となりました。

III 会報の発行

今年度は以下の通り三回発行いたしました。

第七六号二〇二〇年十月五日発行

第七七号二〇二一年一月二二日発行

第七八号二〇二二年三月二二日発行

IV 学生への呼びかけ

従前より各ゼミ学生との交流を広げるために前述のとおり常任幹事会などへの参加を呼び掛け

てきましたがコロナ禍のため今年度も実施できませんでした。

I 会議

1. 二〇二二年度定期総会

二〇二二年七月二六日(月)

八月六日(金)

白門経友会ホームページ上で持ち回り審議

II 行事

1. 学部授業・ゼミへの協力。

オフラインで実施可能な場合は、学外および会員からの講師の推薦を経友会として協力支援する。

2. 学部行事「キャリアガイダンス」等への協力。

オフラインで実施可能な場合は、担当する学生委員会及び学生運営委員会等と連絡を取りつ

III 会報発行

会報「白門経友会」を年三回発行する。なお、前年度同様に原則として紙ベースでの発行を取りやめ、ホームページへの掲載とする。

IV その他

1. 学部の活動状況を、積極的に会報を通して広報する。

2. オフラインで実施可能な場合は、多数が参加可能な講演等の開催。あるいはオンラインで可能な講演を行う。

3. 白門経友会ホームページの内容の充実化として学生および外部有識者からの投稿を進める。

4. 以上の活動を通して入会呼びかけの強化。

つ全面的に協力する。

3. 中央大学「夢」企画における諸活動への支援協力、情報提供を行う。

4. オフラインで実施可能な場合は、白門経友会三〇年目を迎え、会員同士の親睦を計り教職員及び学生との交流を深める行事を行う。

2020年度 決算報告書

自2020年4月1日 至2021年3月31日 (単位:円)

収入の部		支出の部	
科目	金額	科目	金額
前年度繰越金	923,844	総会費	0
会費収入	275,210	会報発行費	0
総会費収入	0	HP維持費	26,400
寄付金収入(学会)	100,000	交流費	3,000
受取利息	5	振込手数料	330
		通信費	24,360
		学部への寄付金	300,000
		雑費	1,056
		小計	355,146
		次年度繰越金	943,913
合計	1,299,059	合計	1,299,059

次年度繰越金内訳

三井住友銀行八王子支店	普通預金	244,080
ゆうちょ銀行	通常貯金	665,320
現金		34,513
合計		943,913

2021年度 予算報告書

自2021年4月1日 至2022年3月31日 (単位:円)

収入の部		支出の部	
科目	金額	科目	金額
前年度繰越金	943,913	総会費	100,000
会費収入	270,000	会報発行費	20,000
懇談会会費収入	30,000	HP維持費	30,000
寄付金収入(学会)	100,000	交流費	100,000
受取利息	3	振込手数料	1000
		通信費	50,000
		雑費	30,000
		小計	331,000
		次年度繰越金	1,012,916
合計	1,343,916	合計	1,343,916

え、あの先生が シリーズ③

経済学部教授 阿部 顕三



一昨年度に経済学部に着任しました、阿部顕三と申します。大学院修了後、名古屋市立大学、立命館大学、大阪市立大学、大阪大学での勤務を経て本学に着任しました。関西圏で長く生活し、還暦を過ぎての異動ということで多少不安もありましたが、経済学部の先生方や事務職員の方々は大変親切で、無事にこちらでの生活にも慣れることができました。

経済学部では、ご退職されました長谷川聰哲教授の担当科目「国際経済政策」を引き継ぎ、他に演習科目を担当しております。昨年度からコロナの関係で、「国際経済政策」は完全にオンライン、演習科目もほとんどオンラインで行っております。携帯もガラケーを使っていた私にとってオンラインで講義を行うことは戸惑いの連続でしたが、それも

徐々に慣れてきました。情報関連の技術革新に驚くとともに、そういった急激な時代の変化についてくことの大変さを感じています。

専門は国際経済学ですが、そのなかでも国際貿易や貿易政策に関する理論的研究です。「理論的研究」と書くとき非常に抽象的なイメージを持たれるかと思いますが、経済学(ミクロ経済学やマクロ経済学)を国際経済の諸問題に応用するもので、取り扱っているテーマ自体は現実の経済に密接に関わっています。

日本はこの二十年間の間にTPPを含む数々の経済連携協定を締結し、貿易の自由化を行ってきました。しかし、この間のニュースなどからもわかるように、貿易自由化に対してはいつも賛否両論があります。自由化によって輸入品が安くなるために消費者は利益を享受でき

るかもしれませんが、輸入競争産業がより厳しい国際競争にさらされるため、その産業に携わっている人々は損失を被ると考えられます。貿易の自由化によってすべての国民の利益を高めることができるのか否かといった問題には経済学の理論を使って考えることが非常に有用です。どこまで分かりやすく説明できたか分かりませんが、『貿易自由化の理念と現実』(NIT出版)という著書で解説しました。

前任校の大阪大学では経済学部長・経済学研究科長や大学の理事・副学長などを歴任し、大学の行政にも関わってきました。国立大学は文部科学省、公立大学はその地方公共団体の影響を強く受けますが、私立大学はそれぞれ大学で個性をもった大学運営や教育などが行われているように思います。

中央大学は長い歴史と伝統を持ち、これまで培われてきたすばらしい個性をもっています。そのような環境の中で教育・研究に携われることに感謝するとともに、引き続き本学の発展に少しでも貢献できればと思います。

編集後記

例年白門経友会の総会は、公開記念講演会、懇親会を通じて、OB、教員、学生が直接交流できるよい機会でしたが、コロナ禍のため、今年度もオンラインでの開催となります。早く集合型での実施が可能となることを切に望んでやみません。

また次号では、記念講演会に代わり、米田貢先生に寄稿していただく予定です。ご期待ください。

(幹事長 濱岡 剛)

経済学部創立百周年記念奨学金へ募金のお願い(目標金額 6,000万円)

学生のキャリア形成を金銭面から後押しする「経済学部創立百周年記念奨学金」の原資が、三年後にも尽きようとしています。経済学部創立百周年に寄せられた篤志から創設され、以来十年間で約二百名の学生を後押しし、各々が大きな成果を挙げてきた本奨学金を、これからの学生たちにも同様の制度として継続したく、現奨学金への追加という形で皆様の支援を賜りたくお願い申し上げます。



募金方法や税制上の優遇措置など、詳しくはWEBサイトをご覧ください。中央大学ホームページの経済学部トップから黄色のパナーをクリック。スマホはQRコード読み込みでお進みください。

2021年8月7日 第79号

発行 白門経友会常任幹事会

編集 白門経友会編集委員会

〒192-0393

東京都八王子市東中野 742-1

中央大学経済学部内

URL: www.wg-keiyukai.com

Fax: 042-673-3425